学生が考えるキャリアイメージ1

――保育者養成校における学年間の比較を中心に――

林　　富公子

1. はじめに

近年、少子化・核家族化に伴い、子どもの育ちや社会の変化、育児不安を抱える保護者の増加や養育力の低下、持続的な経済成長を果たしていく為の女性の就業率の向上（厚生労働省 2011）やワーク・ライフ・バランスの推進が言われてきている。同時に待機児童の問題は継続的に叫ばれており、その中で保育所の改革は進められ、保育時間の延長や、病児保育、休日保育、一時預かりなど様々な保育サービスが提供されている。また、幼稚園においても、預かり保育、土曜保育、満三歳児保育に取り組んでいる園が増えている。

それに伴い、保育者(注1)らに求められる役割はより大きくかつ複雑になっており、そこで働く保育者たちに対する責任は増加し専門性の向上が求められている。このような保育現場における保育者の専門性については、子ども理解、暮らし、遊び、環境を通しての保育などの概念やチームワーク（秋田 2013）等多くの事が言われている(注2)。子どもや保護者らを支え地域と連携していけるような専門性を持った保育者の増加の為には、経験豊かな保育者の存在が必要であると思われる。

しかしながら現実的には、待機児童の多い都市部では保育士採用難と勤続年数の短さが深刻化しているという（ポピンズ 2011）。その裏には、保育士資格を有しているが保育士として就労していない「潜在保育士(注3)」の存在がある。実際、正規保育士の 61.5％ が 20～30 代であり、私立においては 20 代の割合が 51.2％（全国保育協議会 2008）となっている。

また幼稚園教諭においても、66.6％ が 10 年未満の勤続年数（国立 33.3％、公立 42.5％、私立 72.3％）で、平均勤続年数は 10.3 年（国立 15.8 年、公立 16.4 年、8.9 年）であり、保育士と同様に勤続年数の短さが伺える。

このような、保育士や幼稚園教諭ら保育者の勤続年数の短さの課題は最近始まったことではなく、以前より指摘されていた（黒田 1962、小西 1970、流王 1986）。

理由として、保育者（保育士・幼稚園教諭）においては、「労働条件」（黒田 1962、高見ら 1995）、「結婚・出産など」（黒田 1962）、「仕事への適性のなさ」（加藤ら 2011）が言われ、保育士では「対人関係」（高見ら 1995）、「仕事の適性」（高見ら 1995）、「結婚・出産など」（石坂 1989）、幼稚園教諭でも「労働条件」、「やりがい」、「女性のライフサイクルからくる理由」、「中

堅のキャリア変化からくる理由」（川俣 2008）が述べられている。

また、保育者養成校を卒業した者に対する質問紙調査では(注4)、「精神的・肉体的負担」（高見ら 1994、望月ら 2001）、「人間関係」（光岡ら 1974、田中 1975、高見ら 1994、望月ら 2001）、「結婚・出産」（光岡ら 1974、田中 1975、原田 1995、石上ら 2001、宮崎ら 2013）などが保育職を退職する理由であると言われている。

その中でも、保育者の「結婚・出産など」については、実際の退職理由として最も多いこと（原田 1995、石上ら 2001、宮崎ら 2013）、幼稚園教諭においては 5 年以上勤務の者の突出した理由であること（加藤ら 2011）が記されている。

保育士においては、結婚・出産後も職業を継続したり、一旦離職して復帰したりするという M 字型就労パターンをとること（中田 2011）も言われているので、保育士においても「結婚・出産」が離職理由になっている場合もあることが分かる(注5)。

「結婚・出産」が退職理由になる訳として、1990 年代は結婚慣例退職のある場合があること（原田 1995）が述べられている。近年、幼稚園教諭においては、短大を出て、地元に勤務して 20 代半ばに結婚し、仕事を辞めるといった女性のライフコースの一つが現在も有効であること（加藤ら 2011）、職業よりも家族を優先させる雰囲気があることや結婚や出産をしても働き続けるというモデルの不在が理由であるといわれていること（川俣 2008）、一定の年齢になると離職を促す職場の規範が存在していることもいわれていること（中田 2011）がいわれている。保育士においても、園によって違いはあると思われるが、妊娠をしたら辞めるというのが暗黙のルールになっている園も少数ながら存在していると思われる(注6)。

そこで、性別役割分業意識からこの問題を見ていくと、幼稚園教諭の性別役割分業意識は、公立幼稚園よりも私立幼稚園が高く、保育者養成校の学生よりも幼稚園教諭全体のほうが高いこと、（川俣 2008）が示されている。このことから、保育者養成校の学生は、幼稚園に就業することによって性別役割意識が高くなるとされている（川俣 2008）。

一方、保育者養成校の学生を対象とした調査では「保育士希望者の方が、結婚・出産など、事情が変化するまで勤めたい者や、定年まで勤めたいと思っている者が幼稚園希望者よりも多いこと。」（日浦 2009）が言われている。

このことから、保育者として働く前の段階である保育者養成校の在学時代から、「結婚・出産」が保育職を退職する理由となりえる思いを持っていることが分かる。

ただ、これらの研究は大学の 4 年生を対象にしたもの（日浦 2009）、大学・短大・専門学校の 1～4 年生を対象としたもの（川俣 2008）であったが、学年間の比較は行われていない。

また、「保育士志望か幼稚園教諭志望かという職業選択に実習経験が影響を与えている」（日浦 2009）ということからも分かるように、実習経験の有無が保育者養成校の学生の結婚・出産後の就業意識に影響を与える可能性は捨てきれない。

そこで保育者のキャリアを考える手がかりとして、短大保育者養成校の女子学生で実習未経験の 1 年生と実習に参加した後の 2 年生の間で、学生自身のキャリアにおける結婚、出産、就職に

対する思いについて調査することを目的とする。

2. 方　　法

(1) 調査時期と調査対象

2013 年 4 月入学・進級直後の近畿府県下の A 短大、B 短大の学生 1、2 年生 304 名（保育者養成系の授業を選択者）に質問紙を配布し、白紙のものや回答不備のもの 14 名、男子学生の人数が少なかったので性差を考慮し男子学生 4 名を除く 286 名（1 年生 158 名、2 年生 128 名）を分析対象とした。

尚、倫理的配慮として、質問紙を配布する際、以下の事を説明し、プライバシー保護に努めた。

①この調査は現在、皆さんが受講している講義とは関係ないこと。

②アンケートへの協力は学生の皆さんの自由意志によるので途中で回答をやめることができること。

③回答しない場合も何ら不利益は生じないこと。

④回答内容は無記名で回収後、コンピューターにて一括集計して取り扱うこと。

⑤回答によって皆さんの個人情報が漏れることはないこと。

⑥学会や学術論文などでの研究成果公表段階でも個人の情報として扱うことはしないこと。

(2) 調査内容

調査内容は、フェイスシート、「全国保育士養成協議会の調査研究データ」を参考に進路選択 5 問、就労と個人生活の送り方 6 問の計 11 問の質問紙である。（論文末尾にアンケート用紙を掲載）

3. 結果と考察

(1) 卒業後の希望進路

卒業後の進路については、1 年生、2 年生共に、就職を希望している者が多かった。その他は、「就職と進学で悩んでいる」であった。

1、2 年生共に就職を目指している者が多い理由として、学校を選択する時点で学校における学びと将来の職業が関連していることが考えられる。

Table 1　卒業後の希望進路

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
就職	275	96%	149	94%	126	98%
進学	2	1%	2	1%	0	0%
未定	8	3%	6	4%	2	2%
その他	1	0%	1	1%	0	0%

(2) 希望就職先

就職希望先を Table 2 に示した。保育所への就職希望者が最も多く、次に幼稚園への希望者が多かった。保育所・幼稚園に比べると、施設への希望者は少ない。この理由として、保育者の就職先として保育所や幼稚園教諭を真っ先に思い浮かべてしまい、施設がイメージできないことが理由であると思われる(注7)。尚、その他は、院内保育 2、病院、子どもと関わる仕事、未定、公務員であった。

また、学年により希望就職先に差があるかを見たところ、フィッシャーの直接確率検定で、一般企業希望者に差が出た（Table 2）。

このことに対する、さらなる詳細を見るために希望就職先の詳細を Table 3 に示した。この表から、両学年とも保育所・幼稚園の両方への就職希望者が多い。保育所と幼稚園だと、保育所への希望者が多いことが改めてわかる。

保育所への希望理由として、自由記述より「小さいころからの夢」や「憧れ」であると同時に、「乳児と関わりたい」、「幅広い年齢の子どもと関わりたい」な

Table 2　希望就職先（複数回答可）

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
保育所	237	83%	136	86%	101	79%
幼稚園	184	64%	104	66%	80	63%
施設	63	22%	36	23%	27	21%
一般企業	27	9%	4	3%	23	18%***
その他	6	2%	5	3%	1	1%

***p＜.001

Table 3　希望就職先（詳細）

		1 年	2 年	人数
保育所・幼稚園	保育所・幼稚園	71	43	114
	保育所・幼稚園・施設	22	13	35
	保育所・幼稚園・施設・一般		2	2
	保育所・幼稚園・一般	1	5	6
	保育所・幼稚園・その他	1	0	1
	小計	95	63	158
保育所	保育所のみ	26	28	54
	保育所・施設	10	6	16
	保育所・一般	1	4	5
	保育所・施設・一般	1	0	1
	保育所・その他	3	0	3
	小計	41	38	79
幼稚園	幼稚園のみ	8	7	15
	幼稚園・一般	1	6	7
	幼稚園・施設	0	4	4
	小計	9	17	26
一般		0	6	6
施設		3	2	5
その他		1	0	1
合計		149	126	275

どが記述されていた。幼稚園希望者の理由は、同じく自由記述から「自分が通っていたから」、「昔からずっと決めていた」などが述べられている。施設を希望する者の理由としては、「実習に参加し、とてもやりがいを感じたから」や「乳児院に就職をする為にこの大学に入ったから」などがある。このことから、学生は施設よりも保育所や幼稚園へ就職を希望する理由として、以前からの自分の思いや憧れが大きく、仕事内容を具体的にイメージしやすいことが分かる。

また、Table 2 において学年間で差が出た「一般」の希望者は、1 年生が全員保育所・幼稚園・施設に複数回答していることに比べ、2 年生は一般のみの希望者もいた。その者たちの理由として、「保育に向いていないと思ったから」、「保育所・幼稚園ではない、子どもとかかわる仕事がしたいと思ったから」、「やりたい仕事だから」とあった。このことから、2 年生は保育所実習や施設実習を通して、保育という仕事に向き合うことで自分の進路を考え、保育職に対する思いを再考していると考えられた。

(3) 保育職を選んだ理由

保育職を選んだ理由を聞いたところ、Table 4 のような結果になった。

その他は、お母さんが保育職、お母さんと、おじさんと、おばさんが保育士だから、助けてあげたい、お母さんの意見、頭が悪いからであった。

平均 .50 以上には子どもが好き、子どものときからの夢、やりがいがあった。一方、給料がよい、社会的評価の高い仕事などを選択した者は 1、2 年生とも少なかった。このことから学生は、保育職についてやりがいはあるが、給料が安いことや社会的評価の低いものであることを認識しながらも、保育職を選択していることが考えられる。

学年間で、保育職を選んだ理由に差があるかをみる為、カイ二乗検定を行った。結果、「自分に向いている（$p<.01$）」、「子どもの時からの夢（$p<.05$）」に差がみられた。さらに、5 未満の度数があるものに関してはフィッシャーの直接確率検定をし、なんとなく（$p<.05$）に差がみられた。

「自分に向いている」を選択したものの希望就職先を見たところ、「保育所・幼稚園」24 人（うち 1 年生 19 人）、「保育所・幼稚園・施設」6 人（1 年生 4 人）、「保育所・幼稚園・一般」1 人、「保育所」17 人（1 年 11 人）、「保育所・施設」3 人（全て 1 年生）、「保育所・一般」1 人、「保育所・その他」3 人（全て 1 年生）、「幼稚園」3 人（全て 1 年生）、「幼稚園・施設」1 人、「幼稚園・一般」1 人であった。

また、「子どもの時からの夢」を選択した者の希望就職先を見たところ、「保育所・幼稚園」71 人（1 年生 37 人）、「保育所・幼稚園・施設」23 人（1 年生 11 人）、「保育所・幼稚園・一般」5 人（1 年生 1 人）、「保育所・幼稚園・施設・一般」1 人、「保育所・幼稚園・その他 1 人」（1 年生）、「幼稚園」7 人（1 年生 6 人）、「幼稚園・施設・一般」1 人、「保育所」30 人（1 年生 14 人）、「保育所・施設」11 人（1 年生 8 人）、 「保育所・一般」3 人、「保育所・その他」1 人（1 年生）、「施設」1 人（1 年生）であった。

Table 4　保育職を選んだ理由（複数回答可）

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
子どもが好き	254	89%	144	91%	110	86%
子どものときからの夢	155	54%	76	48%	79	62%*
やりがいがある	143	50%	83	53%	60	47%
資格を生かす	124	43%	65	41%	59	46%
自分に向いている	59	21%	43	27%	16	13%**
人に勧められた	15	5%	9	6%	6	5%
なんとなく	9	3%	2	1%	7	5%*
社会的評価の高い仕事	4	1%	2	1%	2	2%
その他	5	2%	3	2%	1	1%
給料がよい	2	1%	1	1%	1	1%

*p＜.05　**p＜0.1

「なんとなく」を選択した者の就職希望先は、「保育所・幼稚園」5 人（1 年生 1 名、2 年生 4 名）「保育所」2 人（各学年 1 名ずつ）、「幼稚園」1 人（2 年生）、「保育所・施設」1 人（2 年生）であった。

学年間で差が見られた 3 項目について、就職先を選んだ理由の自由記述等と併せて見てみた。すると、「子どものときからの夢」は自由記述でも「小さいときからの夢」というものが多く見られた。しかしこの中には保育職「子どものときからの夢」として目指しているはずであるにもかかわらず、これを選択した 2 年生の希望就職先には複数回答 9 名の者に「一般」が見られた。

この理由として、就職先を選んだ理由の自由記述には「保育士になりたいが、なれる気がしないから」、「服が好きなので、子供服を扱ってみたい。でもまだ悩み中です。実習に行って自信がなくなった。」とあり、実習に行って「保育者」に憧れるが自信なく悩んでいる姿が伺える。

同様に「なんとなく」の者は「資格を取るから」や「まだ決まっていない」というものが見られ、「資格を取るからなんとなく目指している者」の存在が分かる。

そして、「自分に向いている」では、多くの者が学年に関係なく「子どもが好き」と「小さいときからの夢」と自由記述でも記していた。

これらのことから、保育者養成校の学生は学年に関係なく「子どもが好き」という思いを、持っていることが分かる。しかしながら、保育職を選んだ理由を自由記述や実際の希望就職先と併せて見ていく中で、保育職を希望しながらも「実習」を通して自分自身が「保育職」に向いているかどうかを再考している様子がうかがえた。

(4) 職業選択時に重視すること

職業選択時に重視することを聞いたところ、Table 5 のような結果になった。その他は、自分に合っているか、ピアノを使うか、地元、環境整備であった。

この表から、学生は正規雇用、職場の将来性、福利厚生よりも職場の人間関係、給与、通勤の便利さ、仕事の内容、労働時間、休暇など個人の生活と密着しているものを重視していることが

Table 5　職業選択時に重視すること

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
職場の人間関係	214	75%	110	70%	104	81%**
給与	160	56%	74	47%	86	67%***
通勤の便利さ	137	48%	62	39%	75	59%***
仕事の内容	124	43%	71	45%	53	41%
労働時間	104	36%	53	34%	51	40%
休暇	102	36%	48	30%	54	42%**
保育の理念・方針	97	34%	52	33%	45	35%
人材育成の雰囲気	90	31%	50	32%	40	31%
正規雇用	57	20%	28	18%	29	23%
職場の将来性	54	19%	35	22%	19	15%
職場の社会的評価	34	12%	20	13%	14	11%
福利厚生	25	9%	11	7%	14	11%
研修の充実	22	8%	12	8%	10	8%
その他	5	2%	3	2%	2	2%
特になし	4	1%	2	1%	2	2%
非正規雇用	1	0%	0	0%	1	1%

*p＜0.5　**p＜0.1　***p＜.001

分かる。

学年間で「職業選択時に重視すること」に差があるかどうかについてカイ二乗検定を行ったところ、「職場の人間関係」、「給与」、「休暇」、「通勤の便利さ」に差がみられた。

2 年生は実習を通して保育の仕事の「多忙感」や「保育者とのかかわり」などを経験したこと（林 2012）で、就職後の生活に対してイメージができたことや、就職に関しても少しずつ現実味を帯びてきていることから、「人間関係」、「通勤」、「休暇」において学年間で差が出たと推察された。

(5) ライフイベントについて

①結婚について

保育者養成校の学生に対し、自身の結婚に対する思いを聞いたところ、Table 6 のような結果になった。

この結果から、学生の 90% 以上は結婚を望んでいることが分かる。A 短期大学で以前なされた結婚観に関する調査では（長谷川 1987）、「是非結婚したい」と「是非というほどではないが結婚したい」と述べたものは 84% で、「結婚する気はない」は 0%、「特に結婚したいと思わない」は 5% であった。これらから考えると、一結婚を望む者は以前と変わらず「（結婚を）したくない者」よりも多いことが分かる。

また、結婚を「あまりしたくない」と「全くしたくない」にした者の理由は、「束縛がいや」や「自分の時間がなくなる」、「育児は大変だから」などであった。

このことから、結婚を望まない理由として「自分の自由時間がないこと」が考えられた。

Table 6　結婚について

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
必ずしたい	169	59%	92	58%	77	60%
できればしたい	88	31%	46	29%	42	33%
わからない	22	8%	15	9%	7	5%
あまりしたくない	6	2%	4	3%	2	2%
全くしたくない	1	0%	1	1%	0	0%

②結婚後の働き方について

結婚を望んだ者（必ずしたい、できればしたい、わからない）278 名に、結婚後の働き方について、質問をしたところ Table 7 のような結果となった。この結果に対し、学年間で差があるかどうかについてカイ二乗検定を行ったところ、「結婚や出産をしても働き続けたい」に差がみられた（p＜.05）。

2 年生に比べ 1 年生は、結婚・出産後も就業することを希望している者が多いことが分かる。

その理由として、「経済的なこと」、「働きたい」、「毎日を充実させたい」、「男に俺のおかげ！！とか言われるのが嫌」、「自分がこの仕事に就きたいと思って、そのためにたくさん勉強して、親にお金まで払ってもらって、資格を取ったから」、「ノイローゼになりそうだから」などがみられた。

逆に退職したい理由として、「両立は自信がないから」、「育児をしたいから」、「専業主婦になりたいから」などがみられたが、その多くは「自分の子どもは自分で育てたい」であった。これは、「社会に出て仕事をすることが大変すぎる」という女性たちの「ニート願望」」（白川ら 2012）という事も言われているが、保育者養成校の学生に関して言えば、「子どもが好きだから、自分で自分の子どもの育児をしたい」という思いが強いのではないかと思われた。

また、1 年生は 2 年生に比べて「結婚や出産をしても働く意欲」があることが分かった。この理由として、2 年生は実習を経験したことにより、実際の保育職と家事・育児の両立の大変さを想像していると思われた。

③退職後の働き方について

結婚・出産退職後の働き方について、質問をしたところ Table 8 のような結果となった。この結果に対し、学年間で差があるかどうかについてカイ二乗検定を行ったところ、「正規雇用で再

Table 7　結婚後の働き方について

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
結婚や出産をしても働き続けたい	142	50%	86	54%	56	44%*
結婚したら退職したい	31	11%	14	9%	17	13%
出産したら退職したい	104	36%	51	32%	54	42%
一度も働かず、家事・育児に専念したい	1	0%	0	0%	1	1%

*p＜0.5　**p＜.01　***p＜.001

Table 8　退職後の働き方について

	全体		1 年生		2 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
正規雇用で再就職したい	39	14%	27	17%	12	9%**
非正規雇用で再就職したい	46	16%	15	9%	31	24%*
一度退職した後は、家事・育児に専念したい	50	17%	23	15%	27	21%

*p＜0.5**　p＜.01　***p＜.001

就職したい」（p＜.01）と「非正規雇用で再就職したい」に差がみられた（p＜.05）。

両学年とも退職後も再就職の意志があるものは半数以上であるが、その後の就職先として、1 年生は 2 年生と比較して正規雇用での就職を希望する者が多いことが分かった。その理由として、「お金のため」、「子どもが成長してくるとお金が必要になってくる」、「正規雇用の方が安定している」、「やるからには正規雇用がよい」というものがあり、特に 1 年生で正規雇用を望むものは「金銭的な理由」や「資格を生かしたい」が多かった。

一方、非正規雇用で採用を希望のものは、「パートで子どもが学校に行っている間に働いて、帰ってきたときに家に入れるようにしたいから」、「正規の雇用は難しいと思う」、「子どものために」、「正規になると、子どもが…と言って簡単には休めないから」というものがあり、2 年生では「家庭生活と仕事との両立の為」に非正規を望む回答が目立った。

さらに、「家事・育児」に専念したい理由として、「家庭に入りたい」、「もう一度働くのは大変」、「自分で育てたい」というものが目立った。

この結果と、Table 7 の結果を合わせてみていくと、やはり 1 年生は 2 年生に比べて、「金銭的なこと」や「（資格取得のための学校にせっかく入ったところなので）資格を生かして働きたい」という思いが強いこと、2 年生になると実際に実習などで保育の現場を体験し「家庭生活と仕事」の厳しさを想像できていることが理由ではないかと思われた。

4. 総合的考察と今後の課題

今回、短大保育者養成校の女子学生で実習未経験の 1 年生と実習に参加した後の 2 年生の間で、学生自身のキャリアにおける結婚と出産、就業に対する思いについてのアンケート調査を試みた。

1、2 年生ともに、卒業後の進路は就職希望のものが多く、就職希望先においても保育関係（保育所・幼稚園教諭）が多かった。その理由として、「子どもの頃からの夢」、「憧れ」や、「保育者養成校に入ったので、資格を取って働きたい」等という意見があった。

保育職を選んだ理由としては、1 年生と 2 年生の間で「子どものときからの夢」、「自分に向いている」、「なんとなく」に差がみられた。「自分に向いている」が 1 年生に多かった理由として、資格の取得に繋がる実習が未経験（中学・高校で体験的に保育現場の実習を経験していたとして

も、資格につながる実習ではないため、記録や指導案がなかったり、あっても保育者養成校でなされる保育実習のように毎日書き続けるものではないと予想される）であるがゆえに、それまでの子どもとのかかわりを元に保育者という職業が「自分に向いている」と考えている可能性もあると思われた。初めての保育所実習におけるストレスの一つに「保育技術の不足」（林 2012）があるが、実習を通して職業としての保育者を考える中で、保育者という仕事の難しさに直面し、「自分に向いている職業かどうか」について再考していることが伺えた。

また、1 年生と比べて 2 年生の希望就職先に「一般企業」が多かった理由として、「保育に向いていないと思ったから」という者と同時に「ほかにやりたいことがあるから」という者もいた。入学時から、「他にやりたいことがあるがとりあえず保育者養成校に入学した」のか、それとも「実習を通して、保育に向いていないから他のことに目が向いたのか」ということは、この結果からは分からない。今後、追調査をすることで、保育者養成校の学生が考える進路についての思いを一層引き出せるのではないかと思われた。

職業選択時に重要視することとしては、2 年生と 1 年生の間で「職場の人間関係」、「給与」「休暇」、「通勤の便利さ」に差がみられた。この差は、実習で保育の現場に触れ、実習で感じた「多忙感と身体疲労」や「保育者とのかかわり」などのストレスを経験した（林 2012）こととも関連しているように思われ、実習を通して「働く」ことがより身近になっていっている様子がうかがえる。

次に学生が考えるライフイベントとして、ほとんどの学生が結婚することを望んでいる。そして、結婚後の働き方は「結婚や出産をしても働き続けたい」に学年間で差あり、1 年生は 2 年生に比べて「結婚・出産」に関係なく継続して就業することを望むことが分かった。

この理由としては、大きく分けて「経済的な理由」と「自分の人生を生きたい」ということがあった。1 年生に比べ、2 年生は経済的な理由よりも、「働きたい」という思いのほうが強かった。これに対し、1 年生は「家庭や子供に経済面で不自由させたくない」や「経済的に心配」などの「経済的な理由」が目立った。これは、学年間の差というよりも個人の思いの違いも多く関係してくると思うので、これについても追調査が必要であると考えられる。

「結婚したら退職したい」者の理由は、いずれの学年も「家庭に専念したい」、「働きたくない」、「子どもに愛情を注ぎたい」であった。この中の「子どもに愛情を注ぎたい」ということから、学生の中には「結婚と出産」がイコールで結びついている者もいる事が示唆される。この考えは、現在不妊に悩む夫婦が少なからずいるという現実(注8)とは少し隔たりがあるように思われた。

「出産したら退職したい」者の理由として、最も多いものが「子どもといたい」、「子どもに愛情を注ぎたい」、「育児との両立は大変そう」などであり、「子どもが好きだから一緒に過ごしたい」というような思いを持っているものが多いことが分かった。これは、保育職を選んだ理由の最も多い回答が「子どもが好き」ということにもつながってくると思われる。子どもが好きであるからこそ、自分の子どもは自分で「見守りたい・育てたい」という思いを持っているのであろ

う。

そして、実際退職した後どうするのかというと、1 年生は正規で再就職したい者が多いが、2 年生になると非正規で再就職したい者が最も多くなる。これは、実習を体験した 2 年生になると、保育の現場を体験し「家庭生活と仕事」の厳しさを想像できていることが理由の一つとして考えられる。また、これまでの流れを見ていくと、経済的な事を 1 年生は多く今まででも述べているので、経済的な理由から、正規での再就職を望んでいるとも思われる。しかしながら、職業選択の理由には、1 年生の方が 2 年生よりも給与面をあまり重視していない。このことを考えると、入学直後の 1 年生は 2 年生に比べ、継続的な就業の希望はあるものの、現実としての就職活動について入学直後ということもあり実感がないのではないかと思われた。

今回、実習を体験した 2 年生と 1 年生の間で「就業に対する思い」と「ライフイベント」について比較をした結果、様々な違いがみられた。しかし、この差は本当に実習を体験したから差がみられたのか、それとも、個人的な理由で差がみられたのかについてはこの研究の限界として言及できていない。今後、同じ対象者を比較することによって、実習によっていかに「保育者養成校の学生が考えるキャリア」に違いがみられるのかがより鮮明になると思われた。

注

（注 1）「保育者」とは広義には幼稚園教諭、保育所保育士だけではなく、親や幼稚園、保育所の職員も含めた言葉である（森上ら 2000）。しかし、ここでは保育者養成校の学生のキャリアイメージを考える中で、学生の多くが就職先とする、幼稚園教諭」または「保育所保育士」と限定して使用する。

（注 2）保育者の専門性としては、CiNii で検索すると、2000 年以降に多くの結果が見られる。

（注 3）「潜在保育士」とは、有資格者の保育士として勤務経験の有無にかかわらず、現在保育士として就業していない人のことをいう。

（注 4）保育者養成校を卒業した者に対する調査とは、保育者養成校を卒業した者に対し、保育者養成校が卒業後の動向を調査したものである。

（注 5）離職した後、どのように再就職をするかといえば、潜在保育士に対する求人は滋賀県の例をみると正規の求人と比較し、臨時やパートの求人数の方が多いと言われており（ポピンズ 2011）、非正規での再就職が多いと思われる。この非正規保育士の増加に関して、非正規保育士は、雇用不安を抱えつつ、保育補助者の位置に固定されている為、自分の力を十分に発揮できているとは考えられないこと、保育園全体の保育力量の先細りが懸念されていること等（重田 2010）が問題とされている。さらに、保育所における主任保育士の経験年数をみたところ、「公営（公立）」が 28.2 年、「私営（私立）」が 19.3 年となっているが、「私営（私立）」では、勤続年数 5 年未満の者が 8.3% となっている。

これらのことから、保育士の勤続年数の短さは、保育者の専門性として重要と思われる、若手保育者の育ちと中堅やベテラン保育者が若手を育てていくという構図（野口 2013）が曖昧になっていくと思われる。

（注 6）日本保育協会が実施した調査の「職員の健康障害」において、「切迫流産」がことに「公営（公立）」において多いことが述べられている。また、亀山ら（2010）によると、母数が少ないとはいえ、保育士の中には育児休業制度を「全然取れない」としているものが、公立保育所 25.6%、私立認可保育所 17.4%、いることが述べられている。これらのことから、結婚・妊娠後も仕事の継続を望む保育士が増加しているとはいえ、私立においてはそれまでに退職している者がいること、公立私立にかかわらず、保育士の中には育児休業が取れない場合もあることが予想できる。

（注 7）この理由として、保育者論のテキストなどにおいても、幼稚園、保育所については具体的に描かれているが、施設については「保育士の仕事は、保育所に限定されるものではなく、乳児院や児童養護施設等さらに広い範囲を補うものである」（小田 2009）という様に補足的に書かれていることにもあるように、「保育者」という場合には「保育士・幼稚園教諭」が思い描かれることが考えられる。

（注 8）「不妊の治療や検査を受けたことのある夫婦は 6 組に 1 組」と言われ、不妊に悩む夫婦も少なからずいることが言われている。

文献

秋田喜代美　2013　発達 134　保育者の専門性の探求　ミネルヴァ書房

中国新聞　2013/1/8　保育士給与引き上げへ　4 月、最大月 1 万円　http : //www.chugoku−np.co.jp/News/Sp201301080103.html（2013/3/5 アクセス）

長谷川誠資　1987　女子短大生の結婚観・夫婦観　園田学園女子大学論文集　21, 131−143

原田康子　1995　保育者養成短期大学における、卒業生の就職動向と退職の要因（その 2）：保育職を退職した者の退職理由と結婚退職の慣例の有無　日本保育学会大会研究論文集　48（205）

林富公子　2012　初めての保育所実習におけるストレスについての考察　園田学園女子大学論文集 46 241−253

日浦直美　2009　幼稚園教諭の専門職化に関する研究：（1）幼稚園教諭志望学生の職業観を視点として　教育学論究　創刊号 129−138

石上智美・望月珠美・徳田克己・横山範子　2001　保育者養成校の卒業生における職場適応Ⅱ：保育従事者の職場における楽しみと困難を中心に：2000 年の調査結果より日本保育学会大会研究論文集（54），808−809

石坂孝喜　1989　保育所保母の働いている意識についてーアンケートの調査結果からー　日本保育学会大会研究論文集　42（99）

株式会社ポピンズ　2011　平成 23 年度保育士の再就職支援に関する報告書　データ集　平成 23 年度厚生労働省委託事業　p 1、32

亀山幸吉・田村惠一・萩原秀敏　2010　保育・介護労働の現状と課題　その 2　福祉労働の実態について　淑徳短期大学研究紀要　49　p 31−65

加藤光良・鈴木久美子　2011　新卒保育者の早期離職問題に関する研究 1－幼稚園・保育所・施設を対象とした調査から－　常葉学園短期大学紀要（42），79−94

川俣美砂子　2008　幼稚園教諭のライフコースとその問題――幼稚園教諭と保育者養成校学生の性別役割意識について　福岡女子短大紀要（71），17−26

小西由利子・石田弘志　1970　幼稚園教諭・保母に実態について（1）日本保育学会大会発表論文抄録　122

厚生労働省　2011 「平成 22 年版　働く女性の実情」 http : //www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei−jitsujo/dl/10a−2.pdf（2013/9/6 アクセス）

黒田成子　1962　幼稚園教師と子どもの 1 年間の歩み　日本保育学会第 15 回大会発表抄録　p 59−60

光岡摂子・石井美晴・常田奈津子・後藤千鶴子　1974　保育者の資質に関する研究－保育科卒業後 1 年における保育者としての意識－　日本保育学会大会研究発表論文集（27），169−170

宮崎つた子・小池はるか・山崎征子　2013　大学による地域保育者再就職支援の調査研究（1）高田短期大学紀要　31, 97−105

望月珠美・石上智美・徳田克己・横山範子　2001　保育者養成校の卒業生における職場適応Ⅲ：保育者の離職・転職の状況を中心に：2000 年の調査結果より日本保育学会大会研究論文集（54），810−811

文部科学省　2012　学校教育統計調査　http：//www.e−stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid＝000001038370＆cycode＝0（2013/6/5 アクセス）

森上史郎・柏木霊峰　2000　保育用語辞典第 3 版　ミネルヴァ書房

中田奈月　2011　男女幼稚園教員・保育士のライフコース　社会の中の子どもと保育者　小堀哲郎編著　創生社　p 160–178
NHK　2012　不妊社会～産みたい・育てたい～　http : //www.nhk.or.jp/shutoken/net/funin/（2013/07/24 アクセス）
日本保育協会　2002　改正保育制度施行の実態及び保育所の運営管理に関する調査研究報告書　保育士の労働実態 http : //www.nippo.or.jp/cyosa/hei 14/03/03_02_06.htm（10–1–1 2013/08/20 アクセス）
西日本新聞朝刊　2013/01/19 付　保育士不足、待遇改善が鍵　補正予算、効果どこまで「潜在」掘り起こし　知恵絞るが……　http : //nishinippon.co.jp/nnp/lifestyle/topics/20130119/20130119_0001.shtml（2013/3/5 アクセス）
野口隆子　2013　保育者の専門性とライフコース－語りの中の“保育者としての私”発達 134　ミネルヴァ書房　p 60
小田豊　笠間浩之　柏原栄子　2009　保育者論　北大路書房　p 31
流王農　1986　A 市私立保育園保母の勤務年数などの実態－勤務年数と保育内容の関連について－　日本保育学会大会研究論文集（39），680–681
重田博正　2010　保育職場のストレス　かもがわ出版　p 34
白川桃子・常見陽平　2012　女子と就活　20 代からの「就・妊・婚」講座　中央公論新社　p 258
高見令英・桐原宏行・徳田克己・横山範子・横山さつき　1994　保育従事者の職場適応に関する研究（1）－職種間比較を中心として－　日本保育学会大会研究論文集　47（318）
高見令英・桐原宏行・徳田克己・横山範子　1995　保育従事者の職場適応に関する研究（3）－キャリアパスを視点として－　日本保育学会大会研究論文集　48（313）
田中東亜子　1975　短大卒業生の保育者としての定着性について　日本保育学会大会研究論文集（28），125–126
全国保育協議会　2008　全国の保育所実態調査報告書　全国社会福祉協議会　p 8, 43　http : //www.zenhokyo.gr.jp/pdf/0805cyousa.pdf（2013/3/5 アクセス）
全国保育協議会　2011　全国の保育所実態調査報告書　全国社会福祉協議会　p 38　http : //www.zenhokyo.gr.jp/cyousa/201209.pdf（2013/10/03 アクセス）

〔はやし　ふくこ　幼児教育〕

ライフサイクルについてのアンケート

皆さんがこれから社会に出て働く中で、仕事と家庭を両立していくには多くの課題があると思います。そこで、ライフサイクルとしての結婚・出産を考える中で、課題解決の手掛かりを得たいと考えました。回答者の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

なお、答えて頂いた内容は無記名で回収後，コンピューターにて一括集計して取り扱いますので，決して皆様や周囲の人々にご迷惑をおかけすることはありません。また，この調査は今後の参考のために実施するもので，結果は目的以外には使用しませんので安心してお答えください。

－記入上の注意－

Ⅰ．　答えは最後の質問までもれなく記入してください。

Ⅱ．　記入はボールペンか鉛筆を使って番号に○をして下さい。

記入例　　①　男　　②　女

Ⅲ．　〔　　〕には質問に当てはまる答えをお書き下さい。

記入例　〔　26　〕歳

Ⅴ．　答えがその他の時には〈　　〉内に出来るだけ具体的にお書き下さい。

１．　基本事項についてお尋ねします。

・性別　　①　男　　②　女

・学年　　①　1年生　　②　2年生　　③　3年生　　④　4年生

・学校　　①　大学　　②　短大　　③　専門学校

２．現在の卒業後の希望進路はどれですか？

①　就職　　②　進学　　③　未定　　④　その他〈　　〉

３．２で「①就職」に○をした人におたずねします。就職先として考えているもの全てに○をしてください。（複数選択可）

①　保育所　　②　幼稚園　　③　施設関係〈　　〉　④　一般企業　　⑤　その他〈　　〉

４．３の理由は何ですか？

５．３で「①保育所」、「②幼稚園」、「③施設」を選んだ方にお聞きします。あなたが職業として保育職を選んだ理由は何ですか。次の選択肢の中から、あなたが重視したものを選んでください。（複数選択可）

①　子どもが好き　　②　資格を生かす　　③　自分に向いてる　　④　やりがいがある

⑤　給料がよい　　⑥　子どものときからの夢　　⑦　社会的評価の高い仕事

⑧　人に勧められた　　⑨　なんとなく　　⑩　その他〈　　〉

６．結婚について、どう思いますか？1つだけ選んで○をしてください。

（①～③に○を付けた方は７へ、④・⑤に○を付けた方は 11 へお進みください）

①　必ずしたい　　②　できればしたい　　③　わからない　　④　あまりしたくない　⑤　したくない

７．６で「①必ずしたい」、「②できればしたい」、「③わからない」に○をつけた方にお聞きします。
結婚後のあなたの生活について、希望に最も近いものを次の中から 1つだけ選んで○をしてください。

①　結婚や出産をしても働き続けたい
②　結婚したら退職したい
③　出産したら退職したい
④　一度も働かず、家事・育児に専念したい

８．７の理由は何ですか。

９．７で「②結婚したら退職したい」、「③出産したら退職したい」に○をつけた方のみお答えください。
退職後のあなたの生活について、希望に最も近いものを次の中から 1つだけ選んで○をしてください。

①　正規雇用で再就職したい
②　非正規雇用で再就職したい
③　一度退職した後は、家事・育児に専念したい

１０．９の理由は何ですか。

１１．６で「④あまりしたくない」、「⑤したくない」に○をつけた方のみお答え下さい。
その理由は何ですか？

どうもありがとうございました。